

第14回日口知事会議概要報告

平成9（1997）年8月5日～13日

全 国 知 事 会

写真あり

8月5日（火）全国知事会訪口代表団歓迎式
（モスクワ・シェレメチェヴォ第2空港）

写真あり

8月6日（水）チャジロフ・ロシア知事会会長・モスクワ州知事訪問
（モスクワ州庁）

写真あり

8月7日（木）ウリンソン副首相兼経済相表敬訪問
（モスクワ・ホワイトハウス）

写真あり

8月7日（木）第14回日口知事会議全景
（モスクワ・プレジデント・ホテル）

写真あり

8月7日 第14回日口知事会議

写真あり

8月7日（木）第14回日口知事会議コミュニケ調印

写真あり

8月8日（金）スイスエフ副首相表敬訪問
（モスクワ・ホワイトハウス）

写真あり

8月8日（金）ストロエフ連邦院議長表敬訪問
（モスクワ・連邦院）

写真あり

8月8日（金）イワノフ第一外務次官訪問（モスクワ・外務省）

写真あり

8月9日（土）ツェルバコフ・サンクトペテルブルグ市第一副知事訪問
（サンクトペテルブルグ市庁）

写真あり

8月12日（火）ノジコフ・イルクーツク州知事訪問
（イルクーツク・レトロ-1ホテル）

写真あり

8月12日（火）日本人共同墓地で献花
（イルクーツク・リストビヤンカ墓地）

はしがき

全国知事会訪ロ代表团（団長・土屋会長）一行 11 名は、ロシア知事会の招待により、平成 9 年 8 月 5 日から 8 月 13 日までの 9 日間、ロシアを訪問し、モスクワ州、サンクトペテルブルグ市、イルクーツク州の各地において歓迎を受けた。

この間、8 月 7 日に開催された第 14 回日ロ知事会議においては、「日ロ友好親善の発展について」を議題として、ロシア側代表と熱心な意見の交換を行ったほか、訪問先の各地において、ロシア連邦要人や州、市の幹部と会見した。

今回の会議及び視察等を通じて、代表团はロシアの友好的な歓待を受け、両国の相互理解と今後の友好親善に極めて有意義な成果を収めた。

本報告書は、この日ロ知事会議について、その概要を報告するとともに、出発から帰国まで日を追って各地歴訪のあとをたどり、その概略を記したものである。

なお、今回の訪ロに関し種々御配慮をいただいた日ロ両国の関係各位に厚く謝意を表する次第である。

目 次

I 第14回日ロ知事会議

1 会議	1
2 出席者	2
3 議事概要	3
4 コミュニケ	18
5 共同記者会見（要旨）	23

II 要人との会見（要旨、日程順）

1 チャジロフ・ロシア知事会会長（モスクワ州知事）	24
2 ウリンソン副首相兼経済相	26
3 ヤコブレフ国際民主財団総裁	28
4 スィスエフ副首相（地方自治担当）	29
5 ストロエフ連邦院（上院）議長	31
6 イワノフ第一外務次官	33
7 ツェルバコフ・サンクトペテルブルグ市第一副知事	35
8 ノジコフ・イルクーツク州知事	37

III 日程概要

1 主要日程	39
2 各日日程	41

IV 資料

1 訪問州の概要	53
2 ロシア連邦行政区画図	54
3 都道府県とロシア地方・州・市との友好提携状況	55
4 日ロ知事会議開催一覧	56

I 第14回日ロ知事会議

1 会議

日時：平成9（1997）年8月7日（木）15：00～16：30

場所：モスクワ市 プレジデント・ホテル会議場

開会挨拶：A. S. チャジロフ・ロシア知事会会長（モスクワ州知事）
土屋義彦全国知事会会長（埼玉県知事・代表団団長）

来賓挨拶：A. I. カザコフ大統領府副長官
都甲岳洋在ロシア日本国特命全権大使

議長：日ロ両知事会会長

議題：「日ロ友好親善の発展について」

意見交換：N. K. マクシュータ・ヴォルゴグラード州知事
土屋義彦埼玉県知事
Y. N. ツィビコフ・ブリヤート共和国副首相
荻野清士香川県副知事
細野光弘京都府副知事
津田貞之兵庫県公営企業管理者

コミュニケ採択

共同記者会見

2 出席者

(1) 日本側

土屋義彦全国知事会会長・埼玉県知事

荻野清士香川県副知事

細野光弘京都府副知事

津田貞之兵庫県公営企業管理者

紀内隆宏全国知事会事務総長

岩本廣幸全国知事会国際部副部長

鶴島明雄全国知事会総務部参事

新井達太埼玉県立小原循環器病センター名誉総長

柴崎篤房埼玉県理事

椎木隆夫埼玉県秘書課主査

来賓 都甲岳洋在ロシア日本国特命全権大使

(同行) 谷口竜哉二等書記官

通訳 堀江豊

(2) ロシア側

A. S. チャジロフ・ロシア知事会会長・モスクワ州知事

N. K. マクシュータ・ヴォルゴグラード州知事

Y. N. ツィビコフ・ブリヤート共和国副首相

A. I. リシーツィン・ヤロスラブリ州知事

N. I. スヴィストノフ・モスクワ州副知事

V. スクラトフ・モスクワ州国際部長

V. N. クプリアーノフ・モスクワ州国際部次長

V. I. カリーニン・モスクワ州対外経済顧問

S. V. パラモノフ国際姉妹都市協会副会長

V. A. ガルシコ国際姉妹都市協会副部長

来賓 A. I. カザコフ大統領府副長官

通訳 A. A. ベリヤエフ

3 議事概要

開会

A. S. チャジロフ・ロシア知事会会長挨拶

尊敬する日本の知事の皆様、代表団の皆様。尊敬するロシア連邦の知事の皆様。我々両国間の関係と協力の発展過程における皆様の御協力に対し、この場をお借りして満足の意を表明いたします。

ロシア連邦は、連邦レベルにおいても、両国国民の現代的で多面的な関係のあり方について、その意義と役割を高く評価するとともに、よく理解していることを強調いたします。また、次の世紀においても、両国が国家及び自治体間で隣善関係を保ち、相互利益に基づいた良きパートナーシップを結べる間柄でありたいと思います。

今年の6月にデンヴァーで行われたエリツィン大統領と橋本総理大臣との会談は、お互いの信頼関係を生み出し、両国にとって重要なステップとなりました。また、同月に東京で開かれた第2回日ロ政府間貿易経済委員会では、多額のクレジットが日本輸出入銀行でサインされるとともに、日本から極東の鉄道やトランスシベリア鉄道の改善への投資をはじめとした大規模な投資をいただけるようになりました。

私は、このような状況下において、知事の皆様が出席されているこの第14回日ロ知事会議が成功し、両国の実務関係がより一層緊密になることを希望しております。

ありがとうございました。

土屋義彦全国知事会会長挨拶

尊敬するチャジロフ・ロシア知事会会長、ロシア連邦の地方、州、市の知事各位、都甲岳洋在ロシア日本国特命全権大使並びに会議に御列席の皆様。

本日ここに第14回日ロ知事会議が開催されるにあたり、日本知事団を代表して一言御挨拶を申し上げる機会を与えられましたことを非常に光栄に存じます。

このたび私どもは、ロシア知事会のお招きにより貴国を訪れることができましたことを大変喜んでおります。私ども代表団は、8月5日モスクワに到着いたしました。本日まで行く先々におきまして、貴国の皆様方から大変暖かい御歓迎を賜り、深い感銘を受けているところであります。日本知事団は、8月13日まで貴国に滞在をさせていただきますが、その間、モスクワにおいて本日の日ロ知事会議に出席するほか、国家及び社会代表の要人との会見、視察、レニングラード州及びイルクーツク州への訪問など、様々な充実したプログラムを計画していただきまして、心から感謝を申し上げます。

さて、昨年は日ロ両国にとりまして、国交回復40周年という節目の年でありま

した。政府間におきましては、首脳会談をはじめとする対話が活発に行われ、国交回復 40 周年を祝う多くの行事が両国で開催されました。私たちのこの会議も、1968 年に日本で開催されたのが始まりで、まもなく 30 年を迎えようとしています。このような時期に貴国を訪問し、地方行政の責任者たる皆様方と親しく意見を交わし、交流を深められますことは、きわめて意義深いものであると考えております。

過去、これまでの会議で話し合われましたテーマは多岐にわたりますが、それらの基本をなすものは、今回の議題となっております日ロ友好親善の発展について、さらには経済協力等であったと理解しております。

私どもは、現在ロシア全土で展開されております自由で民主的な経済建設等の推進を支持するものであり、その成功を心から期待しております。

先程、チャジロフ会長が、デンヴァー・サミットにおける橋本＝エリツィン会談が大変成功であったということにお触れになりましたが、私は去る 8 月 4 日に橋本総理大臣、池田外務大臣、経団連日本ロシア経済委員会の代表と会い、日ロ関係について意見を交わしてまいりました。

席上、橋本総理大臣は、7 月 24 日に経済同友会で講演した日ロ関係改善に向けての「信頼」「相互利益」「長期的視点」の三原則について資料を示しまして、「前向きに進んでいく」との熱意を示しました。

池田外務大臣は、私が主張しております「政府対政府の外交もさることながら、地方自治体自らが草の根外交を展開することが、わが国が将来にわたり平和国家として生き延びる道である」という持論を高く評価し、また、「プリマコフ外相に対して、日ロ知事会議という地方自治体どうしの会議があるのだから、これを是非活用してほしいと申し入れた」と述べておりました。さらにまた、「日ロ知事会議を今後の日ロ関係の友好促進の場として位置付け、しっかりとした会議を持ち、地方レベルの交流を促進させる必要がある」と述べておりました。外務大臣は、特にエリツィン体制になって、日本に対するロシア外務省の布陣も非常にすばらしいこの時期に、日ロ両国の良好な関係づくりをしたいとのことで、私に対しましても協力の要請があったところでございます。

日本の全国知事会といたしましても、この会議と交流を通じまして、日ロ両国間の県州レベルにおける相互理解と友好親善関係が一層発展し、両国の友好協力関係の進展に寄与することを心から願いたします。

なお、私は、参議院議長を務めておりました旧ソ連邦時代の 1991 年 1 月に、ルキヤノフ最高会議議長の御招待を受けて貴国を訪問させていただきました際、現在のエリツィン大統領ともお会いさせていただきました。その際、エリツィン大統領が「日本とロシアは隣国同士、仲良くやっていかなければお互いが不幸になる」と言われましたことが、未だに私の脳裏に焼き付いて忘れることができません

ん。

私は、今後開催される日ロ両国の首脳会談において、両国の永年の課題を解決し、一日も早く平和条約が締結され、日ロ関係の完全な正常化が実現することを期待しております。まさしく日ロの夜明けであります。決意を新たにいたしまして、自治体外交を通じ、両国の繁栄と世界の平和に貢献してまいりたいと存じます。

本日の会議が意義深く、また、実り多い会議となりますよう心から念願をいたしまして、私の御挨拶とさせていただきます。

スパシーバ。

来賓挨拶

カザコフ大統領府副長官

尊敬する大使閣下、尊敬する第14回日ロ知事会議参加者の皆様。私は、ロシア大統領とその行政府を代表して、我々の隣国日本の自治体指導者である皆様に、歓迎の言葉を述べることを喜びとしております。

伝統となった日ロ知事会議は、日本とロシア両国の相互理解と協力、善隣関係の強化に顕著な役割を果たしております。両国国民間、自治体間の交流が良い伝統となり、最近の両国関係が好転していることから、我々は両国間の善隣関係の発展を楽観的に見ております。そして、1993年10月に調印された「東京宣言」に基礎をおく思想が、ますます現実的な全容を見せてきたことを、満足の意をもって指摘します。このことは、日ロ関係の全面的発展のため共同で選んだ戦略的方針の正しさを証明するものです。

我々の観点として重要なことは、両国関係で達成されたすべての肯定的なものを定着、発展させ、善隣関係の強化、正直なパートナーシップ、両国民の前にある現実的問題の解決に向けていくことではないでしょうか。

我々には、この目的達成のため共同で行動する用意があります。両国の地域レベルでの協力を発展させ、アジア＝太平洋地域の安全、エコロジー、麻薬の阻止等のためにたたかっていきたいと思っております。このことが、アジア＝太平洋地域及び世界全体の平和と安定の維持につながるという確信を表明したいと思っております。

今年の11月に、ロシア国内において、エリツィン大統領と橋本総理大臣との会談が予定されておりますが、この会談の場所をめぐっては、シベリア、極東の4つの都市が候補に挙がり、互いに競争しております。そしてもちろん、皆様方のこの会議も、善隣関係を一層強化していくものであると確信しております。大統領府を代表して、常時このような交流が発展するよう援助していくことを誓います。そして、この会議の成功を心から希望するものであります。

ありがとうございました。

都甲岳洋在ロシア日本国特命全権大使

チャジロフ・ロシア知事会会長、土屋日本知事会会長、ロシア各州の知事の方々、御列席の皆様。本日、こうして第14回日ロ知事会議に出席する機会を得られましたことを、私の大きな喜びとするところであります。

最近、日ロ関係は、両国首脳や外相間の頻繁な会合と、政治レベルの交流がますます活発化してきており、年内にノー・ネクタイで非公式な日ロ首脳会談を行うということについても、既に合意されております。また、北方四島周辺水域における日本漁船の操業枠組み交渉等の具体的な点につきましても、着々と進展してきております。先日も、橋本総理大臣が「信頼」「相互利益」「長期的視点」という3つの原則を提示し、日ロ関係改善への強い意欲を表明されたところでありますが、エリツィン大統領をはじめとして、ロシア側からもこのような建設的なアプローチに対し、高い評価が与えられました。さらに、近年、両国間の経済交流や安保、防衛交流も活発化しています。日ロ間には依然、領土問題を解決して平和条約を締結するという大きな課題が存在しておりますが、全体的な日ロ関係の肯定的な状況の中で、両国間の永年の懸案の早期解決への道筋がつけられることを強く望み、また確信しております。

このように、日ロ関係全体が良い方向へ向けてまさに動き出しているこの時期に、今回の日ロ知事会議が開催されることは、真に意義深いことでもあります。言うまでもなく、日ロ関係の発展というものは、政府レベルの努力によってのみもたらされるものではなく、両国間の地方レベルでの関係もきわめて重要であります。そのような意味において、本日、両国の知事の皆様及び地方自治に関わる皆様方がこのように集まって、直接、率直な意見交換を行い、相互理解を深める機会を持たれるということは、これからの日ロ関係発展に一層の展望をもたらすものであり、私も大きく期待しているところであります。

最後に、本日の会議の成功を祈念して御挨拶とかえさせていただきます。
ありがとうございました。

意見交換

N. K. マクシュータ・ヴォルゴグラード州知事

尊敬する都甲大使、チャジロフ会長、土屋会長、両国の知事の皆様。

ヴォルゴグラードと日本とは、昔から交流を行ってきております。我が州のヴォルゴグラード市は、1972年から日本の広島市との間で姉妹都市関係を持っておりますが、両市とも先の大戦で大きな被害を受けた後、立ち直ってきているという共通点を有しております。両市の間では、経済交流拡大のための各種情報交換、セミナーの開催等を行っており、今後一層の親善交流を図っていきたいと考えて

おります。また、今年も「世界平和連帯都市市長会議」に出席するため、広島、長崎両市に使節団を派遣したところであります。

このように、我々は文化、芸術、経済、貿易等幅広い分野において、日本の地方政府との交流を期待しております。現在、経済活動等においては厳しい状況の我が州に、技術や経済活動の面で協力していただきたいと考えております。

我が州は、科学、機械、建設、造船、石油化学等の分野において潜在力を持っており、日本との相互利益に基づく協力関係を築きたいと考えております。さらに、我が州に豊富なミネラル発掘の実務協力について話が進められており、我々も皆様方と同様に大きな関心を持っています。

私も、ロシアと日本の知事、地方政府間の交流あるいは協力関係が是非必要であると認識しておりますので、この会議をさらに発展させてほしいと期待を込めてお願いいたします。

日本国民の平和と経済の繁栄をお祈りしております。

土屋義彦埼玉県知事

尊敬するチャジロフ・モスクワ州知事をはじめ、今日おでましの皆様方に対しまして、埼玉県知事として御挨拶する機会をいただき、誠にもって光栄の至りでございます。

まず、私自身と貴国との関係について申し上げますと、26年前の1971年に初めて貴国を訪問して以来、今回は5度目の訪問となります。最近では、先程申しましたように参議院議長を務めておりました旧ソ連邦時代の1991年に、当時のルキヤノフ最高会議議長の御招待を受けまして、公式訪問をさせていただきました。

その際、現在のエリツィン・ロシア連邦大統領をはじめ、多くの指導者の方々と会談する機会を得まして、日ソ両国の相互理解と友好親善について親しく語り合ったことが昨日のことのよう懐かしく思い起こされます。今回6年ぶりに、また、知事就任後初めて貴国を訪問させていただき、誠に感慨深いものがございます。

本県は、首都東京の北に位置しており、全国で2番目に平均年齢の若い、人口680万人を擁する県であります。ちょうど、貴国のモスクワ州と同規模の人口であります。そして、首都圏にあって貴重な緑地や古くからの歴史、豊かな文化、人材に恵まれており、多彩な魅力にあふれております。

また、来る2000年には、国の10省庁17機関が移転してくる「さいたま新都心」が完成する予定であり、埼玉県の顔となる魅力あふれる未来型の街ができる予定であります。

また、この「さいたま新都心」には世界最大の可動式のアリーナを県で現在建設中であります。アリーナ全体が、イベントの規模に応じて3万6,000席のスタジ

ラムから 5,000 人規模の音楽ホールなどに形を変えていき、高性能のイベント空間を作り出します。ここで、「第 14 回バスケットボール男子世界選手権大会」を開催すべく誘致活動を今、展開しておりますが、是非応援を賜りますようお願いしたいと存じます。

さらに、本県では、2002 年には日本と韓国で共同開催されるワールドカップサッカーの開催地となっており、現在わが国で最大規模の 6 万 3,000 人のサッカー専用スタジアムの建設が急ピッチで進んでおります。このように、本県は若さと活力にあふれる県として、21 世紀に向け大きく発展する可能性を有しております。

次に、本県の国際交流についてでございますが、現在、『世界に開かれ世界に貢献する彩の国埼玉』を目指しまして、①国際理解、国際協力の推進 ②国際交流の推進 ③外国人が暮らしやすい環境づくりの推進、の 3 つの柱に沿って施策を展開しております。

県では、これまで 4 か国の州省との姉妹提携をはじめ、世界各国との交流による地方外交や、気候変動に関する世界自治体サミットの開催、ネパールに対する公衆衛生技術協力、さらには海外技術研修員の受入れなどの国際化施策を積極的に進めてきております。

特に、気候変動に関する世界自治体サミットでは、世界 55 か国 202 自治体が参加し、各自治体が共同して取り組む「気候変動・都市キャンペーン」を推進するなど地球温暖化防止に向けて、今後の自治体の具体的な行動規範となる「埼玉宣言」を採択し、世界に発信したところですが、ロシアからもキーロフ市、サマラ市に御出席いただきました。

また、私は、経済システムの大きな変革期にあるロシアへの経済協力が推進されるよう、旧知の仲でありますパノフ駐日ロシア大使を招き、埼玉県経済界のリーダー等に対し、講演会を去る 7 月 15 日に開催しましたが、これは大成功を収めました。こうした催しを通じて、新生ロシアをより良く理解し、ロシア経済が期待する経済協力や貿易の振興に結びつくことを願い、引き続き本県経済界へのロシア情報の提供など環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

さらに、ロシア連邦に役立つ人材育成についても、今後協力していきたいと考えております。幸い本県には、国の特殊法人である国際交流基金が設置した日本語国際センターがあり、ここに、ロシアから日本語を学びに来ている青年もいます。これらの方々や、日本語がある程度できる青年を対象にして、人材育成のための研修生受入れに協力していきたいと考えております。

私は、常々、わが国が国際社会における責任を十分果たしていくためには、政府対政府のオフィシャルな外交もさることながら、地方自治体間や民間がそれぞれの立場で、特色ある交流や協力をしていくことが重要であると考えており、今後とも国とは一味違った自治体独自の地方外交を積極的に展開してまいりたいと

考えております。

とりわけ、21世紀を間近に控え、様々な分野において、国家の枠組みを超えた国際的相互依存関係がますます拡大している今日、こうした取組みの必要性がさらに高まっているものと確信しております。

このたびの日ロ知事会議はもとより、市町村や地域住民による幅広い草の根交流を通じて、日ロ両国が相互理解と友好親善を深め、ひいては世界の平和と繁栄に寄与できることを、切に念願するものであります。

終わりに、暖かいおもてなしをいただいておりますチャジロフ・モスクワ州知事をはじめ、皆様方に改めて厚くお礼を申し上げますとともに、日本とロシア両国の繁栄と、御列席の皆様の御健勝、御活躍を心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

Y. N. ツィビコフ・ブリヤート共和国副首相

尊敬する A. S. チャジロフ・モスクワ州知事・ロシア知事会会長、そして土屋会長を団長とする日本全国知事会代表団の皆様。

ようこそロシアを訪問してくださいました。心から歓迎します。

さて、ロシアの極東とシベリア地域が経済的独立を獲得するにつれて、アジア太平洋地域の近隣諸国から、これら地域との協力に関心が寄せられています。

このような協力の例として、日本とブリヤート共和国との多面的な関係を挙げることができます。アジア太平洋地域の国々の中でも、日本は貿易、経済及び投資協力における主要なパートナーです。日本の実業界は、我が共和国の天然資源、潜在的経済力、沿バイカル地方の独特な自然に対して大きな関心を示しています。近年における日本の大使館関係者の共和国訪問や、日本企業との共同事業の開始等がそれを物語っています。

また、共和国政府と日本の厚生省との共同により、共和国内の旧日本人捕虜埋葬地への日本代表団訪問及び遺跡移転プログラムが実現されています。

貿易、経済協力も進んでおり、共和国と日本との輸出入総額は、この2年間で1,500万ドルに上っています。そのうち1,260万ドルを、11万立方メートルの工業用木材等共和国からの輸出が占めています。日本からの輸入品目としては、ビデオ、オーディオ、医療機器、自動車、ボーリング機械、木材加工機械等が挙げられます。

アジア＝太平洋地域諸国との合弁企業は70社ありますが、このうち日本との合弁で資本金100万ドル以上のものは2社となっています。

共和国政府においては、貿易、経済及び投資環境を良好なものにするための一連の対策を講じています。

1995年には、連邦政府と共和国政府との間で「国際及び対外経済関係における実施項目及び全権の境界設定に関する協定」が調印されました。これにより、貿易・経済・投資協力の拡大、海外諸国との新しい関係樹立において、共和国の権利と権限が著しく拡大しました。

1996年6月には、ブリヤート国会において「ブリヤート共和国経済への外国投資導入活性化に関する法律」が採択されました。これは、生産活動に従事する外国資本の企業に対し、収益への課税を3年間免除するというものです。

また、ブリヤート国境地域（キャプタ市）、モンゴル国境地域（アルタン・ブラグ）及びウラン・ウデ空港税関ターミナルにおける自由経済区の創設について、その問題が解決されつつあります。

現在、22か国の海外資本が共和国経済に参入しています。そのうち3分の2は生産分野に投資されており、森林及び木材加工分野、消費財生産、貿易・サービス産業が投資家の関心を集めています。

我が共和国は、豊富な資源と広範な経済活動分野を有しています。これらは、有望かつ有利な投資の対象となりうるものであり、日本企業とブリヤート企業との事業協力の発展も可能です。

現在、木材の保有量は18億5,000万立方メートルと見積もられており、この豊かな森林によって、関連産業は経済の基幹分野の一つとなっています。この分野の企業は、半製品製造、加工、木材製品輸出を行うパートナーを求めています。有望な事業として、環境保護技術を用いた木材の規格半製品加工、家具製造、天然材の家具用ボード、上質ボール紙等が挙げられます。

鉱業分野も投資を必要としています。鉱物資源は、量、種類ともに豊富であり、鉛、亜鉛、モリブデン、金、石炭等10数種類を産出しています。

ブリヤート共和国においては、協力のための門戸が開かれており、提案したプロジェクト実現のために、外国のパートナーの参加を誘致しております。

最後に、第14回日ロ知事会議が成功し、その成果が今後の両国の親善につながるよう期待いたします。

ありがとうございました。

荻野清士香川県副知事

香川県副知事の荻野でございます。

私は今回初めてロシア連邦を訪れましたが、第14回日ロ知事会議で意見交換を行いますとともに、ここモスクワをはじめロシアの各地を訪問させていただき、貴国の現況を見聞し、伝統ある文化、歴史にも直接触れることができますことは、誠に光栄であり、心より感謝を申し上げます。

また、チャジロフ知事閣下をはじめ、御列席の皆様方が、日本とロシアとの友

好親善のために御尽力されておられますことに対しまして、心より敬意を表したいと存じます。

まず最初に、香川県の概要について御紹介させていただきます。

香川県は、日本列島の西部にある四国という島の東北部に位置し、地形は、南北約 61 キロメートル、東西約 92 キロメートルの半月型で、北は瀬戸内海に面しています。

面積は 1,875 平方キロメートルで、日本全国の都道府県の中で最も小さな県ですが、平野の割合が全国平均の 35% を大きく上回る 52% を占め、人口は 102 万人と、47 都道府県中第 40 位の規模であります。

気候は四季を通じて温暖少雨で、気候温和、まさに瀬戸内式気候の特徴をよく表しています。

瀬戸内海は東洋のエーゲ海と言われておりますが、大小 700 の島があり、そのうち 116 が香川県の区域内にあります。本州と四国を結ぶ瀬戸大橋は、1988 年に完成し、海上部約 13 キロメートルを 6 個のそれぞれ特徴ある美しい橋で結んでおり、道路と鉄道の 2 階建て長大橋としては、世界一であります。そして来年、1998 年には明石海峡大橋が完成し、さらに 1 年後の 1999 年には尾道ー今治ルートの橋が開通する予定となっております。本州と四国は 3 つのルートの橋で連絡することになり、四国の産業、経済、文化の一層の発展が期待されております。

また、香川県には、2,500 メートルの滑走路を有するジェット空港があり、韓国・ソウルとの間に定期路線が開設されているほか、世界各地へチャーター便が頻繁に飛んでいます。今後は、観光による相互交流をさらに発展させるため、ロシアのハバロフスク空港やウラジオストック空港へのチャーター便の就航を希望しております。

次に、私たち香川県とロシアとの人的な交流に関しましては、まず、「国際青年の船」事業があります。これは、青年の国際的視野を養うことを目的として、1972 年以来、福井県と共同で毎年実施している事業でありまして、今日まで 26 年間に、香川県から約 900 名の青年がロシアを訪問し、各地の青年らと交流を重ね、帰国後はその体験を生かし、地域の国際化のために指導的役割を果たしております。今年も 23 人の役員、団員が、去る 7 月 26 日に福井県の敦賀港を発ち、ナホトカに入港、ウラジオストックを経てモスクワ入りし、現地青年との親善や交歓、ホームビジットを通じて共通の経験を分かちあうことにより、厚い友情と揺るぎない信頼が築かれたところであります。

また、1992 年には、ロシア極東地域において地域振興のために指導的役割を果たしておられる自治体関係者を香川県にお迎えし、香川県の行政、産業などを御視察いただくとともに、意見交換会や交流会を通じて、友好親善と相互理解が深められたところであります。

また、文化面におきましても、1988年に香川県の文化の殿堂として完成した県民ホールにおいて、世界最高水準にあるロシアの演劇をはじめ、舞踊、音楽などの舞台芸術が広く紹介されております。最近では、1993年にはクラシックバレエの頂点にあるボリショイ・バレエ団とレニングラード管弦楽団が、1994年にはモスクワ・シアター・オペラとレニングラード・バレエ・シアターがこの県民ホールで公演を行い、大好評を博したところでもあります。今後も、ロシアの優れた芸術文化を広く紹介することにより、ロシア文化に対する香川県民の関心をさらに高めてまいりたいと考えております。

さらに、今年10月には、日本全国の文化の祭典である「国民文化祭・かがわ'97」が香川県で開催されることになっております。ロシアからも、本格的なオペラや華麗なクラシックバレエを披露していただく予定でありまして、必ずや香川県民の心を魅了するものと大いに期待をいたしております。

また、美術展覧会によるロシアとの文化交流であります。我々地方都市においては、ロシアの貴重な美術品を身近で鑑賞する機会に恵まれておりません。たとえばエルミタージュ美術館をはじめ、貴国の有名な美術品を直接鑑賞できる展覧会が、香川県のような地方都市でもしばしば開催できることを心から希望しております。

終わりに、暖かいおもてなしをいただいておりますチャジロフ知事閣下をはじめ、御列席の皆様方に改めて厚くお礼を申し上げますとともに、日本とロシア両国の友好親善と御列席の皆様方の御健勝を心から祈念申し上げまして、私の発言を終わります。

スパシーバ。

細野光弘京都府副知事

京都府副知事の細野でございます。

全国知事会の一員として、日ロ知事会議にお招き賜り、心から感謝申し上げます。また、発言の機会を与えていただき、誠に光栄に存じております。

本会議は今回で14回目を迎えますが、この間に京都府からは2度、私どもの荒巻知事が参加させていただき、また、ロシアからは5度、京都を訪問していただいております。このように長きにわたる本会議の継続、発展を支えてこられた日ロ両国の諸先輩並びに関係の皆様方の御功績・御労苦に、心から敬意の念を表する次第であります。

では、まず最初に京都府を紹介させていただきます。

京都府は、日本列島のほぼ中央部に位置し、北は日本海に面し、面積は4,612平方キロメートルで日本国土の1.2%、人口は260万人で全国の2.1%に当たります。京都の歴史は古く、西暦794年に平安京が創建されて以来、明治に至るまで、千年

余にわたり日本の政治、経済、文化の中心として栄えてきました。今から 130 年ほど前に首都は東京に移転しましたが、長い歴史の中で培われてきた京都の伝統や文化は、今日でもその輝きを失っておりません。茶道、華道、能や狂言といった伝統的な文化芸能、また、西陣織や京焼、清水焼といった伝統産業は現在も盛んで、これらは繊細な日本の美を象徴するものとして世界的にも有名でございます。

しかし、古いもの、伝統的なものの一方で、コンピュータ制御関連機器や精密測定装置の製造のように先端的な分野の産業も盛んでございまして、さらに、多くの大学が集積した「学都」としての側面や、日本を代表するコンベンションのまちという側面ももっております。本年 12 月には、地球や人類の未来にとって画期的な意義を有する地球温暖化防止京都会議が、世界中から 5,000 人以上の方にお集まりいただいて開催されることとなっております。

京都は 1994 年に平安建都 1200 年を迎えましたが、その際にレニングラード州友好提携代表団をお招きし、同州と友好提携に関する協定を締結いたしました。本日はお見えになっておりませんが、レニングラード州は、約 200 年の間ロシアの首都であった歴史と伝統をもち、エルミタージュ美術館などロシアを代表する文化、学術の中心地であり、また、先端的な産業も盛んであることから、京都とよく似た地方公共団体として友好提携を行っているところであります。

友好提携に前後して、本府ではロシアの理解促進のため、1993 年から一部の職員にロシア語研修を実施するとともに、翌年には府立大学にロシア語科目を開設いたしました。また、1995 年と 1996 年には在サンクトペテルブルグ日本国総領事館に本府の職員を派遣する一方、これまでに数人のロシアからの行政研修生を受け入れております。さらに、1995 年以降毎年、両府州の児童生徒の絵画作品の交換事業を実施しております。これまでの交流の経過などを踏まえながら、今後、一層幅の広い交流を推進してまいりたいと考えております。

また、先程御説明したように、京都府内には 47 を数える大学の集積があり、府南部では国家的プロジェクトとして文化、学術、研究の拠点である関西文化学術研究都市の建設を進めていることから、北東アジア地域における学術・文化交流の支援や相互理解のため、「環日本海アカデミックフォーラム」を 1995 年に創設しております。この北東アジア地域は、日本海に面している地方公共団体が多いという土地柄であり、本年冬のロシア船籍タンカー「ナホトカ号」の重油流出事故は誠に遺憾でありましたが、日本海を囲むこの地域では、近年、ロシア、日本だけでなく、中国、韓国なども含めた地方公共団体間での国際交流が盛んであります。ちなみに、昨年秋に日本で行われた第 3 回日露極東知事会議には、私も出席させていただきました。先程お話をした「環日本海アカデミックフォーラム」には、現在、国内外の大学や自治体関係者、さらに民間企業等 270 を超える個人、団体会員が参画されており、昨年 12 月に開催したシンポジウムでは、ロシア科学ア

カデミー極東支部の研究者等による記念スピーチや、「環日本海地域における国際協力」、「環日本海経済圏の行方」などをテーマとした活発な討論が行われました。本年も10月に予定しているシンポジウムに、ロシアや韓国から講演者を迎え、環日本海的环境や物流についてスピーチをいただく予定にしております。

次に、舞鶴港を中心とした日・ロ貿易等経済交流について御説明いたします。京都府では府北部の舞鶴港を、カナダ一国の経済力にも匹敵する近畿経済圏の、日本海側における門戸として位置付け、長期的展望に立って港湾整備を推進しております。1989年には、舞鶴港を通じた貿易振興を積極的に行うため、知事を会長に「舞鶴港振興会」を設立し、貿易貨物の集荷要請や航路開設に向けて積極的なポートセールスを展開しております。また、舞鶴港の産業関係者等は、1994年には経済ミッションをロシア沿海州に派遣しております。さらに、舞鶴港が一昨年3月、日本政府から輸入促進地域の指定を受け、中核施設となるオフィス棟、倉庫棟を現在建設しておりますが、これらの施設は10月には完成する予定であり、21世紀に向けた環日本海貿易の拠点となることが期待されております。

ロシアとの関係につきましては、1957年に締結されました「日ソ海運協定」に基づき、翌1958年にはジャパン・ナホトカ・ラインの寄港地に指定され、北洋材の輸入基地として発展してまいりました。1989年には、コンテナの扱いが可能な多目的クレーンが竣工すると同時に、舞鶴港とロシア沿海地方のポストチヌイ港を結ぶTSCS（トランス・シベリア・コンテナ・サービス）航路が開設され、主に木材関係の製材等の輸入と中古車、中古車部品の輸出を行っております。

近年、ロシアの経済的な低迷により、1988～90年にピークに達した日ロ貿易が減少傾向を示し、舞鶴港を利用するこれらの航路による貿易も停滞しておりますが、ロシアにおいて早期に経済的な安定を確保され、貿易等を通じた日本とロシアとの経済関係が、今後、発展していくことを願うものであります。

今日、グローバル化の進展により、国境を越えた自由な交流が活発になり、また、わが国では地方公共団体の役割が増大していく中で、国際交流においても、今後、地方公共団体が担う役割はより大きくなっていくものと考えられます。こうした状況を踏まえ、これまでに申し上げましたレニングラード州との人的、文化的交流や環日本海アカデミックフォーラムによる知的、学術的交流、また、舞鶴港を拠点とした経済交流を核として、京都府とロシア、ひいてはわが国とロシア両国のより密接な親善交流を進めていくために努力してまいりたいと考えております。

終わりに、貴国のますますの御繁栄と御出席の皆様のお多幸を心からお祈りしまして、御挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

津田貞之兵庫県公営企業管理者

兵庫県知事代理の津田でございます。

第14回日口知事会議にお招きを賜り、心から感謝申し上げます。また、このような発言の機会を与えていただきましたことを、大変光栄に思っております。

兵庫県は日本列島のほぼ中央に位置し、北は日本海、南は太平洋、瀬戸内海に面した人口540万人の自治体です。地勢、気候、風土とも多彩で、県土は神戸を代表とする大都市から農山漁村、過疎、離島などバラエティに富んでいることから、「日本の縮図」と言われています。

産業面では、日本有数の阪神工業地帯、播磨工業地帯に機械、電気、食品、鉄鋼などの基幹産業があり、製造品出荷額は14兆4,000億円余です。

また、農業については、京阪神という大消費地をひかえ、多種多様な農業経営が行われており、農業粗生産額は2,000億円余、水産業では、資源の適正な管理を図るため「つくり育てる農業」を推進しており、9,800余トンの漁獲量があります。

去る1995年1月17日、本県は死者6,000余人、被害総額約9兆9,000億円の大地震に襲われました。この、県南部の阪神・淡路地域を直撃したマグニチュード7.2の直下型大震災は、高齢社会下における未曾有の大都市災害であり、自然の猛威の前に、機能的に発達した近代都市がいかに脆弱な一面を持っていたか、私たちは認識を改めざるを得ませんでした。

幸い、貴国をはじめとする各国政府からの迅速な支援や救援物資の供与、国内各地から駆けつけた累計100万人を超えるボランティアの活躍もあり、速やかな救助、救援がなされ、震災後2年半迎えた現在では、鉄道や道路、港湾などの交通網がすべて復旧し、経済活動もほぼ震災前の水準に回復しつつあります。

今後は、今なお仮設住宅での生活を余儀なくされている2万9,000余世帯の恒久住宅への円滑な移転を進めるとともに、とりわけ高齢者を中心とした被災者の生活再建への支援と、事業再建が遅れている中小小売商業や地場産業への支援に力を注いでいくこととしています。

本県では、震災の教訓を踏まえた県政の推進に当たって、単に旧に復するだけでなく、21世紀の先導的な福祉社会をめざした「創造的復興」を成し遂げていきたいと考えております。

具体的には、人と自然、人と人、人と社会が共に豊かに共生する「こころ豊かな兵庫」の実現のためのいくつかの政策課題に沿って、諸施策を推進しているところです。

なかでも、本年10月には、本県西部の播磨地域で整備中の播磨科学公園都市内に建設され、世界的な研究の推進とその成果への期待が高まっている世界最大の大規模放射光施設が供用開始されるほか、来年4月に世界最大の吊り橋となる明石海峡大橋が完成する淡路地域では、日仏友好モニュメントの設置や、国際園芸・

造園博「ジャパンプローラ 2000」の準備を進めるなど、国際的な視野に立った事業にも積極的に取り組んでいます。

人、モノ、情報などが世界的な規模で行き交う大交流時代を迎えつつある中、今後は、国家、民族などの障壁を乗り越え、多元的な価値観や個性が共存する地球社会をめざした取り組みを展開していくことが求められています。

そのため、本県では、本年 4 月「国際局」を設置し、アジア・太平洋地域の交流センターの機能の強化を進め、国際政策の企画立案、総合的な調整推進を、より一層強化することとしました。

同局では、外国人県民との共生をめざす地域国際化の推進や国際理解の促進に努めるとともに、友好・姉妹州省（アメリカ・ワシントン州、ロシア・ハバロフスク地方、ブラジル・パラナ州、オーストラリア・西オーストラリア州、中国広東省・海南省）を中心とする世界の各地域と、課題解決型の交流を推進することとしています。

とりわけ、1969 年 4 月に友好・姉妹提携を結んだハバロフスク地方とは、保健医療、農業分野の専門家の相互派遣や、同地方の将来の荷い手となる若手人材の招聘をはじめ、経済交流、文化交流、青少年交流を積極的に展開してきました。

一例を挙げれば、1985 年にコウノトリ 6 羽の寄贈を受け、1989 年、本県で人口飼育を開始してから 25 年目にして待望のヒナが誕生し、現在ではハバロフスク地方からのコウノトリの子孫は 32 羽を数えています。

また、1993 年に島根県で第 1 回会議が開催された「北東アジア地域自治体会議」については、翌年の第 2 回会議が本県において開催され、関係自治体がより一層交流事業を活発化し、地域の連帯感を高め、一体性を強めていくことが北東アジア地域の恒久の平和と繁栄に寄与するとの共通認識を示した「ひょうご宣言」が採択されました。

「ひょうご宣言」の中では、本県の提唱により、関係自治体が参加する永続的な国際組織の具体化の検討がうたわれており、その後の協議を経て、昨年、大韓民国で開催された第 4 回会議において、「北東アジア地域自治体連合」が設立されたところ です。

以上、県政のあらましと国際的な施策の一端を紹介させていただきました。

本県の先人に、高田屋嘉兵衛という人物がいます。淡路出身の商人で、19 世紀の初頭、いわゆる「ゴローニン事件」の解決に尽力し、日本とロシアの紛争を回避させた郷土の偉人です。

「ひょうご宣言」にもうたわれているように、自治体、市民レベルでの地道な交流の積み重ねが、円滑な国際関係につながるものであることを改めて確認するとともに、本会議を契機として多くの環日本海交流の輪が芽生え育つことを念願するものであります。

ありがとうございました。

閉会

A. S. チャジロフ・ロシア知事会会長

尊敬する土屋全国知事会会長、代表団の皆様、会議参加者の皆様。

エリツィン・ロシア大統領は、1997年の連邦議会への声明の中で「日本との対話の積極化に努力しよう。我々には、東京宣言の有効性を確認した上で、すべての分野にわたって日本との協力を発展させる用意がある」と述べています。

また、我々は、橋本総理大臣の「信頼」「相互利益」「長期的視点」の3原則を支持するものであります。我々は、この会議が両国接近の役割を果たし、国家のリーダーがこのような目的を達成する一助になるものと考えております。

本日の会議の参加者を代表いたしまして、日本の皆様の御成功と御健康を祈念したいと思います。

ありがとうございました。

土屋義彦全国知事会会長

一言、お礼の言葉を述べさせていただきます。

尊敬してやまないチャジロフ会長の御指導を得まして、第14回日ロ知事会議を成功裏に終了させることができました。ロシアの皆様方の御協力に対しまして、心から感謝を申し上げます。

私どもは、今日を新たな出発点といたしまして、地方行政を通じ、日ロ両国の発展のために、今後自ら先陣をとって全力で取り組んでまいりますこととお誓い申し上げます、お礼の言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

4 コミュニケ

第 14 回日露知事会議コミュニケ

1997 年 8 月 5 日から 13 日までロシア知事会の招待により、土屋義彦全国知事会会長、埼玉県知事を団長とする日本全国知事会の代表団がロシアを訪問した。代表団はモスクワ市、モスクワ州、サンクト・ペテルブルク市、レニングラード州、イルクーツク州を訪問した。

1997 年 8 月 7 日、第 14 回日露知事会議が開催された。この会議にはロシア側より以下が参加した。

チャジロフ、アナトリー・ステパノヴィッチ

ロシア知事会会長、モスクワ州知事

マクシュータ、ニコライ・キリロヴィッチ

ヴォルゴグラード州知事

ツイビコフ、ユーリー・ナンザトヴィッチ

ブリヤート共和国副首相、ブリヤート大統領在モスクワ常駐代表

リシーツィン、アナトリー・イヴァノヴィッチ

ヤロスラブリ州知事

日本側よりは以下が出席した。

土屋 義彦 日本国全国知事会会長、埼玉県知事

荻野 清士 香川県副知事

細野 光弘 京都府副知事

津田 貞之 兵庫県知事代理

紀内 隆宏 全国知事会事務総長

会議参加者の主要な関心は日露間の友好善隣関係のさらなる発展の問題に向けられた。

双方は日露関係の目に見える改善を確認し、両国民の相互理解と友好の拡大及び貿易経済関係・文化交流の発展への協力の面において知事が果たす役割の重要性を強調した。

デンヴァー（米国）でのエリツィン・ロシア連邦大統領と橋本日本国総理大臣の会談が両国指導者間の個人的信頼関係を築く重要なステップとなったことが指摘された。また、双方は、今後の日露関係の更なる発展に関し、橋本日本国内閣総理大臣により表明された信頼、相互利益、長期的視点の三原則を基調とすべきとの共通の意見に達した。

日本側代表団は、ロシアで進められている社会経済の変化、市場関係の強化、社会の民主化と自由化への支持を表明した。

双方は、二国間でビジネス面での協力の分野で起こっている肯定的な動きに注意を向けた。ロシアの経済発展への参加への日本の関心が増大している。

国家間及び地域間の問題に関し、日露地域間、地方行政府間及び社会組織間の多面的な協力の発展と深化に関する問題につき双方の意見と立場を表明できる率直な意見交換が行われた。双方は、1993年の東京宣言に謳われているように、両国政府が早期に平和条約を締結し、もって両国関係が完全に正常化されることを期待する旨表明した。議論の過程で会議の参加者は、情報の相互交換を奨励し、貿易経済関係と交通の拡大及び地域レベルでの科学、技術、スポーツ及び文化交流、地方自治体間の友好関係確立を促進する意向を表明した。

双方は、日露知事間のコンタクトと対話を継続し一層拡大するために努力する意図を確認し、1999年に東京で第15回日露知事会議を開催することにつき合意した。

日本側代表団団長
全国知事会会長
埼玉県知事

土屋 義彦

1997年8月7日

ロシア側代表団団長

ロシア知事会会長

モスクワ州知事

アナトリー・チャジロフ

「ロシア語」

「ロシア語」

「ロシア語」

5 共同記者会見（要旨）

質問 日ロ間の経済交流発展に向けた具体的なプロジェクトはあるか。

土屋会長 日本の都道府県知事の職務は、経済活動に対して直接に介入するものではない。従って、行政上、日本の企業や企業活動に対し、ロシアとの経済、貿易等の環境づくりに対する支援、情報の提供等を行っていくことを考えている。

先月、私の埼玉県にパノフ駐日ロシア大使を招き、県内経済界を中心に約300人を集めて講演会を開催したが、大変好評だった。今後も、そうした活動を続けていきたい。

チャジロフ会長 モスクワは、幅広い分野にわたる技術力を持っており、外国企業が進出しているなど経済的にも大きな潜在力を有している。また、経済活動を行いやすい自由経済地区を設けている。

現在、30～40の経済プロジェクトがあるので、今後さらに意見交換をしながら、協力できるものを求めていきたい。

質問 北方領土問題は、日ロ間の経済交流発展や地方レベルにおける日ロ交流の支障とならないか。

土屋会長 私は今回が5回目の訪ロで、ロシアになってからは初めての訪問だが、以前に比べて人々が明るく活気があるように見え、（領土問題に対する）ロシアの状況が変わってきていると感じる。

領土問題については、ロシア国民の十分な理解を得ることが重要であり、橋本総理大臣の三原則に基づいて、両国間で人、経済、文化、スポーツ等の交流を深めていくことが必要だ。帰国後、今が「日ロ関係の夜明け」であることを幅広く訴えていくつもりだ。

質問 日本においては、ロシア経済に関する情報が少ないように見受けられるが、産業見本市の開催等両国間の情報交換について協力を行うことにより、これが解決されるのではないか。

土屋会長 御指摘のとおりと思う。

特に、両国間の相互理解や情報交換の促進という観点から言えば、政府レベルもさることながら、地域レベルや草の根レベルでの交流も非常に大切だ。そのためにも、この会議のような知事レベルの交流を活発に行い、日本にロシアの情報を伝えていくよう努力したい。

II 要人との会見（要旨、日程順）

1 チャジロフ・ロシア知事会会長（モスクワ州知事）

8月6日（水）10：00～11：35（モスクワ州庁舎知事室）

主な同席者：スヴィストノフ・モスクワ州副知事、スクラトフ同州国際
部長、パラモノフ国際姉妹都市協会副会長
小町公使、池上書記官

チャジロフ会長 まず、我々の会合が実りあるものとなることを祈りたい。そして、52年前の今日、広島において核兵器の悲劇があったことに対し、謹んで哀悼の意を表したい。それは、今もなお後遺症を残しているものであり、出席者全員で黙祷を行いたい。我々は、この悲劇が繰り返されないよう努力しなければならぬと考えている。

（一同黙祷）

土屋会長 到着以来、会長には行き届いた御配慮をいただいている上、同胞に対する哀悼まで頂戴し、感謝申し上げます。また、副知事等には空港まで出迎えていただいたほか、副知事主催の歓迎レセプションも催していただき、重ねて御礼申し上げます。

チャジロフ会長 私自身も空港に出向きたかったが、現在モスクワ地方建設40周年で、会合や建設総合事務所での各種行事、人との会見が多く、行くことができなかつた。

滞在日程等で御注文があれば、何でも言ってほしい。エリツィン大統領は健康を回復したが、現在休暇中でモスクワにおらず、残念だ。ネムツォフ第一副首相とは電話で話したが、彼も2週間の休暇中で、お会いできず残念だがよろしく伝えてほしいとのことだった。

現在、ロシアの財政的な困難は一段落しており、改革の安定化を図りつつあるところだが、決して逆戻りするようなことはない。モスクワ州では、公務員に対する給料の遅配もない。

住宅建設も大々的に進めている。また、ガスパイプ工事は、以前は5ヶ年計画で200キロメートルだったが、この2年で600キロメートルの工事を実施した。電話の普及率も対前年比で2倍となっているほか、雇用の創出や衛星都市に対する助成も行っている。

ルシコフ・モスクワ市長とも話し合いながら進めてきており、改革はかなり安定してきた。

私は住民投票で知事に選出されているし、69の都市の市長も同様だ。国有企

業もまだ30%くらいあるが、この民営化にはかなり時間がかかりそうだ。また、宇宙産業は民営化できないものと考えている。

現在日本からの投資はないが、社会経済は安定化しつつあり、外国資本の投資も10億ドルを超えるような状況にあるので、日本企業の投資を期待している。

土屋会長 私は出発の直前、橋本総理大臣、池田外務大臣、経団連幹部と会い、ロシア訪問について話し合ってきた。特に、7月24日に橋本総理大臣が経済同友会での講演で対ロ三原則を示すなど、今が両国の関係改善、発展のチャンスだと認識している。先のデンヴァー・サミットの際の日ロ首脳会談も、その原点と考えている。

池田外務大臣はプリマコフ外相と10回以上も会っており、両国の知事会どうしの関係発展を強く推進するようにとのことだった。

また、先日はパノフ在日ロシア大使に、埼玉県で日ロ関係について講演をしていただいたところだ。

今のロシアについては、6年前に比べて明るく活気があるという印象を受けている。

チャジロフ会長 土屋会長は正しい政策を推進しておられる。地方政府間の交流、ビジネスの個人的交流等については、ロシアでは我々地方政府がその活動等について保証をしていかなければならない。

土屋会長 北方領土問題は日ロ間の大きな問題であるが、これについては両国で時間をかけ話し合っ解決していく必要がある。そのためには、両国の文化交流、住民や地域間の交流等を積み重ねていくことが大事だと考える。

チャジロフ会長 日本は経済的には大国であり、また文化国家でもあり、なおかつ有能な国だと考えている。我々は、我々の文明社会の発展に貢献するため、相互に協力し、共通の利益を追求する決意を持っている。

土屋会長 我々日本の地方政府も、橋本総理大臣の対ロ三原則の方針に同調しており、一致協力してこれを支持しているので、ロシア政府、ロシア地方政府ともども、相協力して世界の安定と平和のために貢献していきたい。

私は今、地方自治の振興発展に力を注いでいる。現在、日本では改革の時期を迎えており、中央の権限や税財源を地方へ移す地方分権の推進が最大の懸案事項となっている。今後もこのために全力を傾けていく考えだ。

2 ウリンソン副首相兼経済相

8月7日（木）9：20～9：50（ホワイトハウス）

主な同席者：チャジロフ・ロシア知事会会長

小町公使

会長 今回の訪問の目的は、第14回日ロ知事会議に出席するためである。モスクワ到着以来、チャジロフ会長はじめロシア知事会の皆様方の厚い歓迎に大変感謝している。昨日は、チャジロフ会長を表敬訪問したり、星の町等を御案内いただいたりした。

ロシアの改革が着実に進展していると聞いて喜んでいるところだ。私は出発前日の8月4日に、橋本総理大臣、池田外務大臣、経団連幹部と会って話し合いをしてきた。橋本総理大臣からは、対ロ三原則により日ロ関係の改善に全力投入する意向であること、また、デンヴァー・サミットの際には、エリツィン大統領と短い時間だが充実した会談ができたということを知っている。

池田外務大臣は、日ロ関係の改善発展について強い意欲を示していた。地方政府レベルでの協力を要請されたので、我々知事も懸命にこれに努めると答えたところ、大臣はプリマコフ外相にも地方レベルの関係強化を依頼したとのことだった。

経団連の日ロ委員会では、財界もこの三原則に賛成しており、これに基づく経済協力の推進に意欲的であるという感触を持った。ただ、税金の種類が55、利益の120%が課税対象と厳しく、投資したいがなかなか難しいということのようだ。

また、先日はパノフ在日ロシア大使に私の埼玉県へおいでいただき、ロシア経済問題等について講演していただいた。まことに成果が上がったので今後も継続したいと考えている。

副首相 両国の経済関係にまで関心を持っていただき、感謝している。日ロ知事会議は今回で14回目とのこと、大変良い関係だといえる。また、池田・プリマコフ両外相の意見にも賛成であり、地方政府間の交流は国の外交政策の補助的役割の要となると思う。

ロシア改革の進展は、日ロ経済交流の推進に大きな利点があり、是非推進する必要がある。

税制については、現在、議会において新制度を審議中であり、日本企業も受け入れやすい形になるだろうと考えている。今年の貿易額は急激に増大している。日本からの投資が拡大されれば、両国の政治的問題の解決に資することとなるので、橋本総理大臣の新方針を注意深く見守っているところだ。私は3年半前に橋本氏と面談した経験があり、その後橋本内閣がスタートした。三原則

は、必ず両国の経済関係発展に寄与するものと確信している。

両国の政府間、地方政府間、国民間の相互信頼と友好関係の進展を期待しており、その前提となるような知事交流の発展を念願してやまない。

3 ヤコブレフ国際民主財団総裁

8月7日（木）11：30～12：00（国際民主財団本部）

主な同席者：クプリアーノフ・モスクワ州国際部次長

総裁 ようこそ、歓迎申し上げます。

私は、ソ連時代のドキュメント「ソ連対外政策」の制作、発行を進めている。その中には日ソ関係も含まれており、今後の日ロ関係の発展に寄与できるものと確信している。

「信頼、相互利益、長期的視点」の三原則にはきわめて重要な意義があり、本当の意味での日ロパートナーシップができると思うし、皆様方の訪問は日ロ関係の新しい時代づくりになるものと考えている。

会長 今回の訪問の目的は、ロシア知事会の招待による第14回日ロ知事会議への出席だ。私たちはロシア到着以来、チャジロフ会長はじめ皆様から心のこもったもてなしを受けている。

私は27年間参議院議員を務めていたが、6年前知事に就任し、現在地方自治の振興に全力で取り組んでいる。

総裁は橋本総理大臣の対ロ三原則、イニシアティブを大変高く評価しておられるので、日本に帰ったらその点を総理によく伝えたい。池田外務大臣には、日ロ関係は両国にとって重要な時期であり、是非しっかり取り組んでほしいと言われている。このようなことから、私は今、日ロ関係は夜明けだと思っており、全力を挙げて取り組んでいきたい。

総裁 すばらしいことだ。まったく同感だ。御挨拶に感謝申し上げます。

池田外務大臣とは前回おいでになったときにお会いしたが、日ロ関係は新しい時代に入ったと感じた。三原則は重要だ。是非発展させたい。

会長 最近の日ロ関係の発展に鑑み、地方外交の展開に全力を尽くしたい。

4 スィスエフ副首相（地方自治担当）

8月8日（金）10：00～10：30（ホワイトハウス）

主な同席者：チャジロフ・ロシア知事会会長、パラモノフ国際姉妹都市
協会副会長
都甲大使

会長 私たちは第14回日ロ知事会議に出席するため、チャジロフ会長のお招きによりロシアを訪問した。会長には到着以来大変お世話になっている。特に昨日は、会長のおかげで日ロ知事会議も無事に終えたところだ。私は今、日ロ関係は夜明けだと思っており、会長と一緒に両国のため一生懸命取り組むつもりだ。

日本を出発する際、是非お目通り願いたいと思っていたが、拝謁できてまことに光栄だ。私も27年間参議院議員を務め、そのうち3年間は議長だったが、議長当時の6年前にルキヤノフ議長の招待で訪ロした際、現在のエリツィン大統領と会見した。

私はロシアへ来る直前、橋本総理大臣に会い、デンヴァー・サミットでの日ロ首脳会談のことや対ロ三原則をとること、そしてそれに基づき日ロ関係改善発展に取り組んでいくことなどを聴いている。総理は、7月24日に経済同友会での講演で、この三原則により日ロ関係の進展を図りたいと語った。私にも是非協力してくれとのことだったので、私の立場で全力を挙げて協力すると約束した。

さらに池田外務大臣にも会って、政府間もさることながら、地方政府間関係も両国関係の改善発展には大変重要な時期だと申し上げて協力を約束したし、経団連幹部とも会談し、率直に意見交換をしてきたところだ。

6年ぶりのロシア訪問だが、人々は明るく活気があるように見え、日本に帰国したら国民にロシア再生の姿を伝えたいと思っている。

副首相 会長のお話を大変興味深く聴かせていただいた。お説のとおりだと思う。日ロ関係は今、重要な時期にきており、その点についてはネムツォフ第一副首相から日本での貴重な話を聴いている。両国の地方機関・政府の交流については、新しい関係が必要だと認識しており、その点はチャジロフ会長がよく知っているはずだ。

私も大きな市の市長を務めた経験があるが、そのとき政府は遠い存在だった。私の記憶では4年前にロシア知事会が発足しているが、知事、議長、知事会の地方行政機関がしっかりしていく必要があるし、地方行政の理解をどうやって進めていくか、これからその条件を整備していく必要がある。

会長が町に活気があり明るいと言われたが、我々は経済問題を解決していくため、日本と日本の全国知事会の協力をいただければ大変ありがたいと考えて

いる。日ロ知事会議も 14 回目とのことで、これからの両国関係を強める上で大変重要だ。日本に近い極東、バイカル地域の開発等にも日本の援助が必要だと考えている。

日本では、県の下に市町村があるのか。ロシアにはそうしたものがない。

事務総長 日本には約 3,300 の地方政府（市町村）があるが、これらは 47 の地方政府（都道府県）に属しており、この点で地方制度は 2 層制をとっている。

これら地方政府は首長と議会とを有し、首長及び議会を構成する議員は、ともに住民の直接選挙で選出される。首長と議会とは、抑制と協力の程良い緊張関係にある。

副首相 日本からわざわざ皆様方に来訪していただき、本当に感謝している。

5 ストロエフ連邦院（上院）議長

8月8日（金）11：30～12：00（連邦院）

主な同席者：チャジロフ・ロシア知事会会長

都甲大使、池上書記官

議長 ようこそロシアへ。

会長 国権の最高機関の長である議長に拝謁できて光栄であり、感謝申し上げます。

私は27年間参議院議員を、そのうち3年間は議長を務め、6年前に知事に就任した。議長当時の6年前、当時のルキヤノフ議長の招きで訪ロした際、現在のエリツィン大統領にもお会いしている。

今回の訪問の目的は、第14回日ロ知事会議に出席するため、チャジロフ・ロシア知事会会長の招きによるものだ。昨日の日ロ知事会議は、チャジロフ会長のおかげで大きな成果を収めた。

連邦院（州・地方等の知事、議長で構成）には関係も深くお世話になっているので、議長にお会いできて感激している。議長が、斎藤十朗参議院議長の招きで来日されることを歓迎する。また、桜内義雄元衆議院議長・日ロ議員連盟会長が訪ロすることになっているので、よろしく願いたい。

議長 喜んでお会いする。

会長 私は、訪ロ直前に橋本総理大臣に会ってきた。彼は、デンヴァー・サミットの際にエリツィン大統領と短い時間だが中身のある会談を行った後、経済同友会の講演で対ロ三原則を提唱するなど、日ロ関係の改善発展に全力を尽くしている。

また、池田外務大臣にも会い、日ロ関係の発展は重大なことであり、我々地方政府も政府の方針を全面的に支持していくと話してきた。

歴代在日ロシア大使の方々にも、この30年余り大変お世話になっており、現在のパノフ大使にも、去る7月中旬、埼玉県においていただき、日ロ関係について講演していただいた。

日本に帰国したら、新生ロシアの実態を国民に知ってもらおうよう努めたい。

議長 全国知事会の代表団に我が連邦院を訪問していただき光栄であり、感謝している。

ロシアの連邦院は、地方を代表する国会となっており、法的には国家院の決定を承認する。必要ならば逆に連邦院から国家院に送付し、また、関心のあること等については、外部的には無党派で、積極的な政治活動を行っている。その他、検事総長、最高裁長官等の人選を行う権限、大統領の選挙を決定する権限もある。連邦院は、チャジロフ会長はじめロシア知事会を構成している知事等によって構成されており、この連邦院なしに国会は成り立たない。

現在、日ロ関係はかなり良い状態であり、それをさらに発展させるべきだ。エリツィン大統領は橋本総理大臣への書簡で、再び鉄のカーテンを引いてはならないと言っている。橋本総理大臣の三原則については、これを読んで分析したところ、内容、方向ともに理解できるものだった。昨日は日本の新聞関係の代表団が、今日は皆様方が来られるなどお互いの交流が盛んなのは、両国がよい方向に歩んでいるということだ。

私は日本の立場を理解しており、領土の保全、核兵器の不拡大等の政策にも同感を覚える。我々は、アメリカ、中国、韓国と友好関係を保っており、日本との間でもそれを作り上げていきたい。今のパノフ在日大使もよい話し相手であり、いつも話し合っている。

経済問題についても関心があるが、なかなか進展せず、特に、ご存じのようにサハリン、極東地域については皆様の協力がないと開発が進まないというような状況だ。サハリン地区（ウラジオストク）では250億ドル規模の石油、天然ガスの開発プロジェクトが進んでいるが、これに協力が得られれば両国関係はさらに改善されることとなるだろう。

我々は、皆様がここに来ておられるように、地方政府間交流、知事交流を進めることを大切にしていきたいと考えており、さまざまな交流が具体化され、実現されることを願っている。

日本の全国知事会代表団がロシア連邦院を公式訪問したことを、両国の各種交流、経済的関係のポイントとすることを提案したい。皆様の訪問により、本当にお互いがますます近づき、親しくなりつつあると思う。

会長 大変貴重なお話を伺った。帰国後、斎藤議長にもお話をお伝えする。

私も知事として地方行政を担っており、政府レベルと違った地方政府間交流、知事交流も大事なことと考えている。私も全力を挙げて取り組み、世界の平和にいささかでも貢献したいと思っている。

昨日もチャジロフ会長と経済、文化、若者の交流等について忌憚のない意見交換をしたが、日ロ関係を大事にする上で、地方政府間の交流に全力を挙げて取り組むことを重ねて申し上げたい。

6 イワノフ第一外務次官

8月8日（金）13：00～13：30（外務省）

主な同席者：スヴィストノフ・モスクワ州副知事
池上書記官

会長 御多忙のところお会いいただき光栄であり、感謝申し上げます。訪口が決まったときからは是非お目にかかりたいと希望していた。

私は30年くらいにわたって在日ロシア（ソ連）大使館にお世話になっており、歴代大使の方々をよく存じ上げている。現在のパノフ大使も以前から知っており、信頼も厚く、先月は私の埼玉県で300名余りの財界人を前に、日ロ関係について講演していただいた。

今回、我々の訪問の目的は、ロシア知事会の招待による第14回日ロ知事会議への出席であり、チャジロフ会長には大変お世話になっている。

私は27年間参議院議員を、うち3年間は参議院議長を務め、現在は埼玉県知事として6年目であり、昨年11月、全国知事会会長に就任した。

橋本総理大臣とは政務次官を同時期に務めた頃からの仲で、今回の出発直前に彼と会い、日ロ関係について話し合ってきた。総理は、デンヴァー・サミットの際にエリツィン大統領と会って短い内容のある会談ができ、信頼関係が深まったと言っていた。また、7月24日には経済同友会の席で対ロ関係に関する三原則を提唱しており、私にもこの方針についての協力要請があったので、全国知事会として協力することを約束した。

さらに、池田外務大臣とも出発前に会い、ロシア訪問の上は地方政府の知事等と積極的に話し合うことを確認してきた。

このように、現在日ロ関係は最高の状態にあるので、これをさらに推進するため、政府レベルもさることながら、私の立場からは地方政府間交流、草の根交流を大事にして全力を尽くしていきたい。

次官 ロシア外務省として全国知事会代表団を歓迎する。

私も日ロ関係が改善されつつあることをよく認識しており、両国地方政府レベルの交流が深化していることに敬意と謝意を表す。

ロシアの地方政府は、日本の地方政府の様々な面に高い関心を持っており、外務省もそれに協力、支援している。

橋本総理大臣の政策に感謝し、高い関心を持って注目している。アメリカ・デンヴァーで、エリツィン・橋本両首脳の見解は完全に一致したものと考えている。両首脳には、今後の日ロ関係発展に十分成果を上げることが期待している。改めて言うまでもなく、善隣友好関係を深める希望を持つだけでなく、太平洋関係の安全、安定、環境、核の問題等についても両国が協力していく必要

がある。

日ロ経済は相互に補完関係にあり、両国の経済共同委員会には満足しているが、さらなる両国の関係発展のためには、様々な協力を推進する必要がある。

もう一度申し上げるが、政治よりも経済優先であるべきだと考えている。

ロシアの外務省には地方政府交流委員会が置かれており、ここでは地方政府間の友好協力交流のための方針、方法等を検討することとなっている。我々はこれに対して全面的に協力していく考えだ。皆様方の今回の訪問結果には満足しており、必ず今後の交流に重要な役割を果たすものと確信している。

また、我々は本件についての両国大使館の働きに満足している。

会長 ただいまのお話に変満足している。

6年前、ルキヤノフ議長の招待でロシアに来た際、エリツィン現大統領に会ったが、彼は「日本はロシアのもっとも近い隣国だ。仲良くやっぺいこう」と言っていた。

私は以前、環境庁長官を務めたことがあるので、環境問題に大きな関心を持っており、知事就任後、埼玉県で「自治体環境サミット」を実施したこともある。絶滅の危機にあるシマフクロウについて生態調査を実施したいと考えており、日ロ共同調査への協力をお願いしたい。

次官 お話は承った。検討させたい。

地方政府間の交流は、両国の新しい関係発展のため重要であり、一層拡大していきたい。両国首脳は、デンバーでの会談においてエリツィン大統領がホットラインの設置を提案するなど信頼が深まった。今後も両国の関係、交流を大事にし、発展させていきたい。

会長 橋本総理大臣は私の友人だ。是非よろしくお願いしたい。

次官 来る日ロ首脳会談の準備を万端進めていると総理に伝えてほしい。

会長 お伝えする。

7 ツェルバコフ・サンクトペテルブルグ市第一副知事

8月9日（土）12：00～12：35（サンクトペテルブルグ市庁舎）

主な同席者：チューロフ・サンクトペテルブルグ市対外関係委員会副委員長、アレキサンドロフ・サンクトペテルブルグ日露文化教育基金大和総裁
沖本領事

副知事 ようこそ、サンクトペテルブルグへ。ヤコブレフ知事に代わり歓迎の御挨拶を申し上げます。最近の日口間における友好関係発展の中で皆様方の訪問を受け、光栄であり心から歓迎する。

ヤコブレフ知事は、日本の企業との連携に大きな関心を持っており、これらの協力の発展は我が国、我が市と全国知事会との関係発展に直結するものだ。団長が全国知事会の会長であることを評価し、心から御礼を申し上げます。ヤコブレフ知事は、残念ながら本日はお会いできないが、本年11月に日本を訪問する予定であり、その際には皆様にお会いし、また、お世話になることと思う。

我々は、サンクトペテルブルグにおける日本企業の活動に多大な関心を持っている。現在、日本の2つの通信会社が企業活動をしているが、さらに多くの日本企業がここで活動するよう紹介していただきたい。

我々は都市交通の整備という困難な問題を抱えており、日本の企業と都市交通用の自動車（バス）を共同で生産したいと考えている。また、我々の地下鉄ではしばしば事故が起きており、地下鉄事業も再建しなければならない。日本企業はいろいろ製造しているので、こちらへ進出してもらえればありがたい。

サンクトペテルブルグは自由経済特別区の中でいちばん古く、日本をモデルにして作っていきたいと考えているので、本年11月のヤコブレフ知事訪日の際、この問題について協議していただくことになると思う。

会長 お休みのところ私どもに会見の時間を賜り、深く感謝申し上げます。

都市再開発の問題についても詳しく御説明いただきありがたい。「大和」財団のアレキサンドロフ氏を通じて、サンクトペテルブルグがヤコブレフ知事の御指導の下、着実に進展している様子をお聴きしている。

今回の訪問の目的は、第14回日口知事会議への出席である。特にチャジロフ・ロシア知事会会長にお世話になり、厚く御礼申し上げます。会議も会長のリーダーシップの下、協調的に行われ、盛会であった。

私は今回が5回目のロシア訪問だが、新生ロシアを見て、人々の表情が明るく、活気に満ちているという印象を受けた。

私はかつての（故）グロムイコ外相とも話をしてきた経験を持っているが、今、日口関係は大変良いものになっていると思っている。橋本総理大臣がエリツィン大統領とデンヴァー・サミットの際に会談し、率直な意見交換ができた

ことを喜んでいる。今回の出発に際し、橋本総理大臣に会って話し合ってきたが、日ロ関係については三原則に従って進めていくと言っていたことを伝えた。この三原則については、我々知事も全面的に協力することが必要だ。今はまさしく日ロの夜明けといえる。

また、都市問題等についていろいろお聴きしたが、私の埼玉県は人口 680 万人で東京都に隣接しており、毎日 120 万人が都へ通勤している。交通問題は我々にとっても最大の問題で、政府とともにこれに取り組んでいる。2000 年までに、政府 10 省庁の 17 施設が埼玉県へ移転してくることになっている。

私は 27 年間、参議院議員として国会で活動していたが、少しでも皆様のお役に立ちたいと思って知事になった。パノフ在日ロシア大使とも親しくしていただいており、つい先日は日ロ関係について埼玉県で講演していただいた。

副知事 我が国、市に対する暖かい御言葉に感謝申し上げます。

我が市は、今後日本とどのように関係を発展させていくかに大きな関心を持っている。皆様方がこの地に滞在する期間が短く、財界人との交流ができないのが残念だ。

先ほど私は、これからの日ロ間では日本の協力が必要だと申し上げた。日ロ間には文化交流も行われており、これは両国がともに文化伝統の国であるということだ。また、電気、物理学等の中心はサンクトペテルブルグであり、全国知事会の協力を得て日本の経済界等との交流関係を深めていきたい。両国の政治的問題の突破口になると確信している。

8 ノジコフ・イルクーツク州知事

8月12日(月) 13:00~13:30 (レトロ-1ホテル)

主な同席者：ゼレント・イルクーツク州議会議長、マカロフ同州総務部長

ノジコフ知事 尊敬する土屋会長はじめ全国知事会代表団の皆様、ようこそ。

全国知事会代表団の来訪は2回目であり、これは大変うれしいことだ。私は知事を務めた9年の間、日本の知事の皆様方とは何度もお会いした。最近、新しい知事が誕生し、まもなく就任することになっている。

皆様には、イルクーツクの雄大な自然、産業、人々の生活等をよく御覧いただきたい。私も日本の民間の生活を拝見したことがある。

私たちにとって、日本の文化、産業等は高いレベルにあり、いつも強い関心を持っている。このため私は、たとえばここにヨーロッパの良い製品があるとと言われても、日本のものをもっとも良いと言ってしまふほどだ。

日ロ間に存在する北方領土問題は、両国関係を冷却するものであるが、私が長く知事を務めた経験から、この残された大きな問題については、長い時間をかけることにより、東洋人の知恵が、また、時が解決することになると思う。

私は、日ロ両国の首脳が今年の11月頃にここイルクーツクで話し合うことは、両国の友好協力の発展に尽くすことになるかと確信している。

会長 尊敬するノジコフ知事、ゼレント議長及び関係の皆様、シベリアのパリと言われるイルクーツクを訪問することができて感激している。

私は、イルクーツクの自然の美しさに加え、皆様方の心の美しさに感動した。1990年、第11回日ロ知事会議のため来日されたノジコフ知事に、私は参議院議長としてお会いしている。昨日は、我々の到着が夜遅い時間だったにもかかわらず、わざわざ空港まで出迎えに来ていただき、厚い友情に深く感動している。本日は議長にもお目にかかれ、大変光栄だ。

また、先刻は民俗博物館で伝統的なすばらしい歓迎をしていただき、本当に感激している。改めて感謝申し上げます。

私は橋本総理大臣と同時期に政務次官を務めたことがあり、今回の出発直前に、総理と会ってロシア訪問について意見交換をしてきた。総理は、7月24日に経済同友会での講演で対ロ三原則を示し、これに基づき日ロ関係の改善発展に努めるとしている。これについては、モスクワで会った各要人とも評価してくれた。全国知事会としても、皆様と話し合い、これに全面的に協力していくこととしたい。

私がかつて、現在のエリツィン大統領に会ったとき、大統領は日本に一番近いのがロシアであり、日ロ関係はもっとも重要だと言っておられた。

また、ノジコフ知事には北方領土について触れていただき、本当に感動して

いる。この問題については、長期的視点に立って解決していくべきだと考えている。我々は、アジアの同胞として世界の平和と安定のため全力で協力し、これを達成していきたい。

ゼレント議長 ようこそ、イルクーツクへ。

イルクーツク州政府は、日本の地方政府との間で非常によい関係を持っており、1993年には新潟県の代表が来訪し、1995年には我々が日本を訪問している。その際には日本の関係先の方々に歓迎していただき、私には今もその印象が残っている。

私は、地方政府間の交流は非常に重要だと考えている。それを通じていろいろなことを学び、両国国民のよりよい生活を確保するため各種の法や体制を整備することが必要だと認識している。日ロ間の地方政府、知事交流の拡大発展を明確にしていきたい。

知事 1990年に日本を訪問した際、参議院へ行ったが、当時の土屋議長は時間の許す限り必ず会うと言われ、非常に感激した。

会長 ノジコフ知事はじめイルクーツク州の方を埼玉県にお招きしたい。本県はまだロシアとの交流がないので、まず県内を御覧いただきたい。是非受けてほしい。

また、私は18年前に環境庁長官を務めたことがあり、特に環境問題に関心を持っている。そこで、埼玉県とイルクーツク州との間で、環境に関する交流を行うことを提案させていただきたい。

知事 私は3ヶ月前に知事を辞めることを決めた。今月20日に新しい知事が就任する。私の役割は知事時代より小さくなるが、市民としての役割を果たしていきたい。

Ⅲ 日程概要

1 主要日程

月日（曜）	時間	行事等	宿泊地
8. 5（火）	10：10 11：30 15：50 16：00 19：00	結団式（成田空港 JAL 貴賓室） 東京（成田空港）発（JL-445） モスクワ（シェレメチェヴォ第2空港）着 歓迎式（空港貴賓室） モスクワ州政府主催夕食会（モスクワ州政府ゲストハウス）	モスクワ（プレジデント・ホテル）
8. 6（水）	10：00 12：30 16：30	A. S. チャジロフ・ロシア知事会会長との会見（モスクワ州庁舎） 「星の町」（宇宙飛行士訓練施設）視察 宇宙飛行管制センター視察	同上
8. 7（木）	9：20 11：30 15：00 16：45 19：00	Y. M. ウリンソン副首相兼経済相との会見（ホワイトハウス） A. N. ヤコブレフ国際民主財団総裁との会見（国際民主財団本部） 第14回日ロ知事会議（プレジデント・ホテル） 記者会見（プレジデント・ホテル） ロシア知事会主催夕食会（プレジデント・ホテル）	同上
8. 8（金）	10：00 11：30 13：00 15：00 23：59	O. N. スィスエフ副首相との会見（ホワイトハウス） E. S. ストロエフ連邦院議長との会見（連邦院） I. S. イワノフ第一外務次官との会見（外務省） モスクワ市内視察（クレムリン等） サンクトペテルブルグへ出発（列車）	車中

月日（曜）	時間	行事等	宿泊地
8.9（土）	8：30 11：00 12：00 13：00 15：00 19：00	サンクトペテルブルグ着 サンクトペテルブルグ市庁舎視察 ツェルバコフ・サンクトペテルブルグ市第一副知事との会見（サンクトペテルブルグ市庁舎） サンクトペテルブルグ市政府主催昼食会（スモリニンスカヤ・ホテル） エルミターージュ美術館視察 バレエ鑑賞（マリンスキー劇場）	サンクトペテルブルグ（スモリニンスカヤ・ホテル）
8.10（日）	10：10 15：00	夏の宮殿視察 市内視察	同上
8.11（月）	7：20 8：40 11：45 22：30	サンクトペテルブルグ発（SU-2436） モスクワ（シェレメチェヴォ第1空港）着 モスクワ発（SU-129） イルクーツク着	イルクーツク（アンガルスキーフトル・ホテル）
8.12（火）	10：30 13：00 13：40 15：00 18：40	タリツィ民族博物館視察 Yu. A. ノジコフ・イルクーツク州知事との会見 イルクーツク州知事主催昼食会（レトロ-1ホテル） アンガラ河、バイカル湖視察 リストビヤンカ日本人墓地献花	同上
8.13（水）	11：20 15：30 15：45	イルクーツク発（SU-871） 新潟着 解団式（新潟空港貴賓室）	

2 各日日程

第1日 8月5日(火)

時間	行事等	主な出席者等	場所等
10:10	結団式	土屋義彦会長以下代表団 見送り (事務局)	成田空港3階 JAL 貴賓室
10:30	東京(成田空港)発(JL-445)	矢野文一事務局次長 石場雅美国際部長ほか 埼玉県、香川県、京都府、兵庫 県関係者	
15:50	モスクワ(シェメチェヴォ第 2空港)着	出迎え (ロシア側) N. I. スヴィストノフ・モスク ワ州副知事	
16:00~ 16:20	歓迎式	V. I. カリーニン・モスクワ 州 対外経済顧問 (在ロ日本大使館) 谷口竜哉書記官	空港貴賓室
16:50	ホテル着		プレジデント ・ホテル
19:00~ 21:00	モスクワ州政府主催迎夕食会	(ロシア側) ナベレジネフ・モスクワ州副 知事 V. N. クプリアーノフ同州国際 部次長 V. I. カリーニン同州対外経済 顧問 (在ロ日本大使館) 谷口竜哉書記官	モスクワ州 政府ゲスト ハウス プレジデント ・ホテル泊

第2日 8月6日(水)

時間	行事等	主な出席者等	場所等
9:40	ホテル発		
10:00～ 11:35	A. S. チャジロフ・ロシア知事会 会長との会見	土屋義彦会長以下代表団 主な同席者 (ロシア側) N. I. スヴィストノフ・モスク ワ州副知事 V. スクラトフ同州国際部長 S. V. パラモノフ国際姉妹都市 協会副会長 (在ロ日本大使館) 小町恭士公使 池上正喜書記官	モスクワ州 庁舎知事室
12:30～ 13:00	「星の町」(宇宙飛行士訓練施 設) 視察	同行 V. N. クプリアーノフ・モスク ワ州国際部次長 オルガ通訳	
13:00～ 14:30	昼食		
16:30～ 17:30 18:00	宇宙飛行管制センター視察	同上	
	ホテル着		
19:00	夕食		プレジデント ・ホテル 同ホテル2階 レストラン 同ホテル泊

第3日 8月7日(木)

時間	行事等	主な出席者等	場所等
8:50	ホテル発		
9:20～ 9:50	ウリンソン副首相兼経済相との 会見	土屋義彦会長ほか4名 主な同席者 (ロシア側) A. S. チャジロフ会長 (在ロ日本大使館) 小町恭士公使	ホワイトハウ ス
11:30～ 12:00	ヤコブレフ国際民主財団総裁と の会見	土屋義彦会長以下代表団 主な同席者 (ロシア側) V. N. クプリアーノフ・モスク ワ州国際部次長	国際民主財団 本部
13:00～ 14:15	角崎利夫在ロ日本大使館公使主 催昼食会		韓国料理店
15:00～ 16:45	第14回日ロ知事会議 「日ロ友好親善の発展について」	(日本側) 土屋義彦会長以下代表団 (ロシア側) A. S. チャジロフ会長ほか (来賓) 都甲岳洋在ロシア日本大使 A. I. カザコフ大統領府副長官	プレジデント ・ホテル1階 会議場
16:45～ 17:10	共同記者会見		同上
19:00～ 21:00	ロシア知事会主催歓迎夕食会	(ロシア側) A. S. チャジロフ会長 N. I. スヴィストノフ・モスク ワ州副知事 V. N. クプリアーノフ同州国際 部次長 V. I. カリーニン同州対外経済 顧問	同ホテル 14 階

時間	行事等	主な出席者等	場所等
		<p>S. V. パラモノフ国際姉妹都市 協会副会長 (在ロ日本大使館) 都甲岳洋大使 谷口竜哉書記官 (通訳) A. A. ベリヤエフ</p>	<p>同ホテル泊</p>

第4日 8月8日(金)

時間	行事等	主な出席者等	場所等
9:30	ホテル発		
10:00～ 10:30	0. N. スイスエフ副首相との会見	土屋義彦会長以下代表团 主な同席者 (ロシア側) A. S. チャジロフ会長 S. V. パラモノフ国際姉妹都市 協会副会長 (在ロ日本大使館) 都甲岳洋大使	ホワイトハウス
11:30～ 12:00	E. S. ストロエフ連邦院議長との 会見	主な同席者 (ロシア側) A. S. チャジロフ会長 (在ロ日本大使館) 都甲岳洋大使 池上正喜書記官	連邦院
13:00～ 13:30	I. S. イワノフ第一外務次官との 会見	主な同席者 (ロシア側) N. I. スヴィストノフ・モスク ワ州副知事 V. I. カリーニン同州対外経済 顧問 (在ロ日本大使館) 池上正喜書記官	外務省
14:00～ 15:00	都甲岳洋在ロ日本大使主催昼食 会	(大使館側) 都甲岳洋大使 角崎利夫公使 谷口竜哉、池上正喜書記官	日本大使館
15:00	戦勝記念公園、レニン丘、クレ ムリン視察	同行 V. I. カリーニン・モスクワ州 対外経済顧問 オルガ通訳	

時間	行事等	主な出席者等	場所等
19:00	小田恭士在ロ日本大使館公使主催夕食会	(大使館側) 小町恭士公使 蒲原正義公使 谷口竜哉書記官	中華料理店
13:59	モスクワ発(列車)	同行 V. I. クプリアーノフ・モスクワ州国際部次長 スミルノフ通訳 見送り (ロシア側) V. I. カリーニン・モスクワ州 対外経済顧問 オルガ通訳 (在ロ日本大使館) 谷口竜哉書記官	車中泊

第5日 8月9日(土)

時間	行事等	主な出席者等	場所等
8:30	サンクトペテルブルグ着	出迎え (ロシア側) I. B. アレキサンドロフ・サンクト ペテルブルグ市国際問題顧問・日露文化教育財団大和総裁 (在サンクトペテルブルグ日本総領事館) 沖本康成領事	
9:10	ホテル着、休憩		スモリニンスカヤ・ホテル
10:50	ホテル発		
11:00～ 11:50	サンクトペテルブルグ市庁舎視 察		
12:00～ 12:30	V. N. ツェルバコフ・サンクトペ テルブルグ市第一副知事との会 見	土屋義彦会長以下代表団 主な同席者 (ロシア側) V. E. チューロフ・サンクトペテルブルグ 市対外関係委員会副委員長 I. B. アレキサンドロフ同市国 際問題顧問 V. N. クプリアーノフ・モスク ワ州国際部次長 (在サンクトペテルブルグ日本総領事館) 沖本康成領事	サンクトペ テルブルグ市庁 舎
13:00～ 14:30	サンクトペテルブルグ市政府主 催昼食会	同上	スモリニンスカヤ・ホテル 1階レストラ ン
15:00～ 17:00	エルミタージュ美術館視察	同行 I. B. アレキサンドロフ・サンクト ペテルブルグ市国際問題顧問 V. N. クプリアーノフ・モスク ワ州国際部次長	

時間	行事等	主な出席者等	場所等
19:00～ 21:00	バレエ「ジゼル」鑑賞	同上	マリンスキー 劇場
21:30～ 23:00	夕食	同上	
23:15	ホテル着		スモリニンス カヤ・ホテル 泊

第6日 8月10日(日)

時間	行事等	主な出席者等	場所等
9:30	ホテル発		
10:10～ 12:30	夏の宮殿視察	土屋義彦会長以下代表団 同行 I. B. アレキサンドロフ・サンクト ペテルブルグ市国際問題顧問 V. N. クプリアーノフ・モスク ワ州国際部次長 スミルノフ通訳	サンクトペテ ルブルグ郊外
13:00	ホテル発		
13:30	森泉達士在サンクトペテルブル グ日本総領事主催昼食会	(総領事館側) 沖本康成領事	韓国料理店
14:30	ホテル着 (休憩、買物等)		
19:30～ 22:00	土屋義彦会長主催答礼夕食会 ホテル着	(ロシア側) I. B. アレキサンドロフ・サンクト ペテルブルグ市国際問題顧問夫妻 V. N. クプリアーノフ・モスク ワ州国際部次長 スミルノフ通訳	ホテル・グラ ンド・ヨーロ ッパ内レスト ラン
22:20	ホテル着		スモリニンス カヤ・ホテル 泊

第7日 8月11日(月)

時間	行事等	主な出席者等	場所等
6:00	ホテル発	土屋義彦会長以下代表団 同行 V. N. クプリアーノフ・モスク ワ州国際部次長ほか	
6:35	サンクトペテルブルグ空港着	見送り (ロシア側)	
7:20	サンクトペテルブルグ発 (SU-2436)	I. B. アレキサンドロフ・サンクト ペテルブルグ市国際問題顧問夫妻 (在サンクトペテルブルグ日本総領事館) 沖本康成領事	
8:40	モスクワ(シェレメチェヴォ第 1 空港) 着 (空港貴賓室で休憩)	出迎え N. I. スヴィストノフ・モスク ワ州副知事 V. I. カリーニン同州対外経済 顧問 S. V. パラモノフ国際姉妹都市 協会副会長	
11:45	モスクワ発 (SU-129)	見送り 同上	
22:30	イルクーツク空港着	出迎え Yu. A. ノジコフ・イルクーツ ク州知事 A. V. マカロフ同州総務部長	
23:00	ホテル着		アンガルスキ ーフトル・ホ テル
23:10~ 24:00	夕食(日程説明)	(ロシア側) A. V. マカロフ・イルクーツ ク 州総務部長	
			同ホテル泊

第8日 8月12日(火)

時間	行事等	主な出席者等	場所等
10:00	ホテル発		
10:30～ 12:00	タリツィ民族博物館視察	土屋義彦会長以下代表团 同行 ニコライ通訳 スワラ通訳	
12:50	イルクーツク市着		
13:00～ 13:00	Yu. A. ノジコフ・イルクーツク 州知事との会見	同席者 I. Z. ゼレント・イルクーツク 州議会議長 A. V. マカロフ同州総務部 長	レトロ-1ホ テル
	Yu. A. ノジコフ・イルクーツク 州知事主催昼食会	同上	同ホテル内レ ストラン
14:45	ホテル発ラケタ栈橋へ	同行 Yu. A. ノジコフ・イルクーツ ク州知事	
15:00～ 18:30	アンガラ河、バイカル湖視察 (汽船ボスホド号)	A. V. マカロフ同州総務部長 ニコライ通訳 スワラ通訳	
18:30	リストビヤンカ栈橋着		
18:40～ 19:00	リストビヤンカ日本人墓地献花	同上	
19:20	ホテル着		アンガルスキ ーフトル・ホ テル
20:00～ 21:00	夕食		同ホテル内 同ホテル泊

第9日 8月13日(水)

時間	行事等	主な出席者等	場所等
8:15	ホテル発	土屋義彦会長以下代表団 同行 A. V. マカロフ・イルクーツク 州総務部長 ニコライ通訳	
9:00	イルクーツク空港着 (空港貴賓室で休憩)	見送り 同上	
11:20	イルクーツク空港発(SU-871)		
15:30	新潟空港着	出迎え (事務局)	空港貴賓室
15:45~ 16:15	解団式	石場雅美国際部長 保原孝良総務部副部長ほか 埼玉県、香川県、京都府、兵庫 県関係者	

IV 資料

1 訪問州の概要

州名	知事名	人口・面積	州都名	位置・地形・気候等	産業
モスクワ州	A. S チャジロフ	15,721 千人 47.0 千平方 ^{キロメートル} (モスクワ市を 含む)	モスクワ (人口 9,003 千人)	ロシア連邦西部の州。 ロシア平原中部、オカ 川・ボルガ川上流を占 まる。	ロシア連邦の重要な工業地帯 をなし、重工業が活発。近郊 農業が行われている。
レニングラ ード州	V. A. グストフ	6,705 千人 85.9 千平方 ^{キロメートル} (サンクトペテルブルグ 市を含む)	サンクトペテルブルグ (人口 5,035 千人)	ロシア連邦西部の州。 バルト海沿岸低地を占 め、北部はラドガ湖と なる。	燃料、電気、建設資材、セル ローズ、製紙、アルミニウム 工業と近郊農業とが発達して いる。
イルクーツ ク州	Yu. A. ノジコフ (任期：1997 年 8 月 19 日まで)	2,863 千人 767.9 千平方 ^{キロメートル}	イルクーツク	ロシア連邦中部の州。 州の大部分が標高 500 ^{メートル} 以上の中央シベリア 高原に属する。	木材加工、機械、化学工業が 発達している。金、雲母、石 炭の産地。

写 真 あ り

3 都道府県とロシア地方・州・市との友好提携状況

(1997. 4)

		(提携年月日)
(1) 兵庫県	ハバロフスク地方	1969. 4. 18
(2) 東京都	モスクワ市	1991. 7. 16
(3) 富山県	沿海地方	1992. 8. 26
(4) 青森県	ハバロフスク地方	1992. 8. 27
(5) 大阪府	沿海地方	1992. 12. 8
(6) 京都府	レニングラード州	1994. 11. 4

出典：財団法人自治体国際化協会編集『日本の姉妹自治体一覧 1997』

4 日口知事会議開催一覧

平成9年8月

区分	期日、開催地	議題 () は提出国	知事団メンバー(州県名) ◎は団長、(副)は副知事	訪問先(州県名)	滞在期間
第1回	昭43.12.25 (1968) 東京	①日ソ沿岸貿易の促進 ②ソ連の地方・州と日本の府県との 友好親善関係の発展	◎ハバロフスク地方 沿海地方 チタ州 サハリン州(副) イルクーツク州(副)	①新潟県 山形県 宮城県 岩手県 東京都 青森県 秋田県 ②長野県 富山県 福井県 石川県 島根県 兵庫県	昭43.12.16 ～12.29
第2回	昭44.7.25 (1969) モスクワ	①ソ日両国の文化友好関係の現状と 将来性(ソ) ②ソ日沿岸貿易の現状と将来性(ソ) ③日ソ文化交流の促進について(日) ④日ソ沿岸貿易の発展について(日) ⑤その他	◎愛知県 香川県 兵庫県 福井県 山形県 石川県 山梨県 青森県(副)	沿海地方 ハバロフスク地方 イルクーツク州 レニングラード 州 モスクワ州 ソチ市 (クラスノダール地方)	昭44.7.14 ～7.29
第3回	昭45.5.30 (1970) 東京	①日ソ沿岸貿易の振興について ②日ソ文化交流について	◎ハバロフスク地方 ブリヤート自治 共和国 沿海地方 イルクーツク州 サハリン州 チタ州	東京都 京都府 福井県 大阪県 岐阜県 愛知県 神奈川県	昭45.5.28 ～6.9
第4回	昭46.7.20 (1971) モスクワ	①ソ日関係の一層の発展と協力に ついて(ソ) ②ソビエト極東および東シベリアの 開発ならびに対日沿岸貿易の発展 について(ソ) ③日ソ貿易全般の促進について(日) ④沿岸貿易の促進について(日) ⑤公害対策について(日)	◎岩手県 秋田県 鳥取県 岡山県 福井県 兵庫県 岐阜県(副)	沿海地方 ハバロフスク地方 イルクーツク州 モスクワ州 レニングラード州(又はグルジ ア連邦共和国)	昭46.7.15 ～7.27
第5回	昭47.11.14 (1972) 東京	①経済・文化および科学・技術にお ける協力の一層の拡大について ②環境汚染防止対策について	◎沿海地方 ハバロフスク地方 ブリヤ ート自治共和国 アムール州 チタ州 ノボシビルスク州 イルクーツク州 チュメニ州 サハリン州	東京都 長野県 富山県 石川県 大阪府 三重県 神奈川県	昭47.11.13 ～11.24
第6回	昭49.8.22 (1974) モスクワ	①経済文化の交流について ②自然環境保全について	◎長野県 山口県 石川県 徳島県 三重県 山形県 愛媛県(副) 北海道 (副) 長崎県(副) 富山県(副)	ハバロフスク地方 イルクーツク 州 ノボシビルスク州 モスクワ 州 レニングラード州	昭49.8.16 ～8.25
第7回	昭50.11.26 (1975) 東京	①日ソ親善関係の発展について ②日ソ間の貿易・経済の協力に ついて	◎ロシア連邦共和国(副首相)バシ キール自治共和国、ブリヤート自治共 和国ハバロフスク地方 スタプロポリ 地方 ノボシビルスク州クイビシエフ 州 ヤロスラブリ州 サハリン州	東京都 北海道 福井県 京都府	昭50.11.21 ～12.1
第8回	昭52.7.29-30 (1977) モスクワ	①日ソ親善関係の発展について ②日ソ貿易・経済の協力について	◎奈良県 福井県 鳥取県 新潟県 神奈川県 石川県(副) 群馬県(副) 兵庫県(副) 富山県(副) 北海道(副)	モスクワ州 レニングラード州 ヴォルゴグラード州	昭52.7.28 ～8.6

平成9年8月

区分	期日、開催地	議題 ()は提出国	知事団メンバー(州県名) ◎は団長、(副)は副知事	訪問先(州県名)	滞在期間
第9回	昭54.11.16 (1979) 東京	①日ソ両国の文化友好関係の一層の発展について ②日ソ間の貿易および経済交流の促進について	◎モスクワ州 プリヤート自治共和国 ハバロフスク地方 ヴォルゴグラード州 サラトフ州 チュメニ州 ウラジーミル州 ベルゴロド州	東京都 京都府 奈良県 鳥取県 島根県 神奈川県	昭54.11.14 ～11.24
第10回	昭63.8.25-26 (1988) モスクワ	①日ソ友好親善関係の発展について ②日ソ貿易・経済の協力について	◎東京都 山口県 沖縄県 神奈川県 京都府 北海道(副) 三重県(副) 大阪府(副) 福岡県(副)	モスクワ州 ヴォルゴグラード州 レニングラード市	昭63.8.18 ～8.27
第11回	平2.8.23 (1990) 東京	①日ソ友好親善の発展について ②日ソ貿易・経済の協力について	◎モスクワ州 プリヤート自治共和国 ヤクート自治共和国 ノボシビルスク州 沿海地方 ヴォルゴグラード州 イルクーツク州 チュメニ州 ミンスク州 レニングラード州	東京都 神奈川県 京都府 大阪府 富山県	平2.8.21 ～8.31
第12回	平4.8.25 (1992) モスクワ	①日本・ロシア友好親善の発展について(日ロ共同)	◎東京都 京都府 青森県 北海道 香川県 沖縄県 新潟県(副) 石川県(副) 徳島県(副) 佐賀県(副)	モスクワ州 トベリ州 レニングラード州 イルクーツク州	平4.8.23 ～9.2
第13回	平6.5.10 (1994) 東京	①日ロ友好親善関係の発展について ②日ロ貿易・経済協力の促進について	◎モスクワ州 イルクーツク州 ノブゴロド州 ロストフ州 トベリ州 トゥーラ州 スタプロポリ地方 チュメニ州 サハ共和国 サハリン州	東京都 北海道 石川県 京都府 大阪府	平6.5.9 ～5.19
第14回	平9.8.7 (1997) モスクワ	①日ロ友好親善関係の発展について	◎埼玉県 香川県(副) 京都府(副) 兵庫県(公営企業管理者)	モスクワ州 サンクトペテルブルグ市 イルクーツク州	平9.8.5 ～8.13